島根大学医学部紀要，第36巻，61～66頁，2013年12月

短　　報

男性看護師の看護ケアに対する患者の信頼　－患者の性差による比較－

（男性看護師／看護ケア／信頼）

池田一貴[1)]・内田宏美[2)]・木村真司[3)]・三上知世[4)]

Trust of Male and Female Patients on the Care by Male Nurses

（male nurse / nursing care / trust）

Kazuki IKEDA[1)], Hiromi UCHIDA[2)], Shinji KIMURA[3)] and Tomoyo MIKAMI[4)]

Abstract

Purpose: It is to clarify what the factors about trust of male and female patients on the care by male nurses.

Method: The questionnaire was conducted anonymously from July to August in 2012 against male and female inpatients in good physical condition in the ward which male nurses are assigned.

Result and discussion: Recovery rate was 75.5%. The date of 67 male inpatients and 38 female inpatients were analyzed. There were shown that on male and female patients alike the degree of trust against care of female nurses was higher than against care of male nurses, and the tolerance of female patient against care of male nurses was more difficult than care of female nurses, however on the female patients which were cared by male nurses, the degree of trust against male nurses was higher than were not cared. These results suggested that the patient's results were obtained that the patient's trusts against male nurses were influenced by the experience of care by male nurses rather than sex difference.

Consideration: The patient's trusts concluded that the patient's trusts against male nurses should be built by the considered care.

【要旨】男性看護師の看護ケアに対する患者の信頼に，性差はあるのか，ケアを受けた経験による違いはあるのかを明らかにするために，男性看護師が勤務する一般病棟に入院中の患者に無記名自記式質問紙調査を実施した。男性患者67名と女性患者38名の分析の結果，①男・女患者共に，男性看護師より女性看護師のケアへの信頼が有意に高いこと，②男性看護師によるケアへの抵抗感は女性患者の方が高いこと，③男性看護師から実際に“羞恥心を伴うケア”を受けた経験のある女性患者の男頻度による信頼性に差はないことが明らかとなった。よって，男性看護師のケアに対する信頼は，患者の性差によるより，男性看護師から適切なケアを受けたかどうかの影響の方が大きいと考えられる。男性看護師への信頼の構築には，男性看護師による適切なケアの積み重ねが必要不可欠であることが示唆された。

[1)] 松江赤十字病院
Matsue Red Cross Hospital
[2)] 島根大学医学部基礎看護学講座
Department of Fundamental Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University
[3)] 島根大学医学部臨床看護学講座
Department of Clinical Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University
[4)] 県立広島病院
Prefectural Hiroshima Hospital

Ⅰ．はじめに

平成18年には４万人弱であった男性看護師の数は，平成22年には５万人を超え[1)]，今では一般病棟にも複数名が配置されていることも珍しくない。しかし，男性看護師はまだまだ少数派であり，男性看護師から看護ケア（以後，ケア）を受けることは，患者にとって特別の経験である。

男性看護師からケアを受けることに関して，女性患

者は男性看護師から入浴や清拭などの羞恥心を伴うケアを受けることに抵抗感があること[2]，男性看護師が十分な事前説明をしてケアを行うと，女性患者のケアの受け入れが良くなること[3]，男性看護師からケアを受けたことのある患者は，受けたことのない患者より，男性看護師のケアの受け入れが良いこと[4]等の報告がある。これらの結果をエビデンスとするには検討の余地が大きいが，先行調査からは，男性看護師からよいケアを受けた体験が男性看護師に対する患者の態度を変化させる可能性も示唆される。

Ⅱ．目　　的

男性看護師からケアを受けることに対する患者の信頼に，性差はあるのか，ケアを受けた経験による違いはあるのかを明らかにし、患者・看護師の性差を配慮したケアへの示唆を得る。

Ⅲ．研究方法

1．デザイン・方法

関連探索研究。自己記入式無記名質問紙調査。留置法。

2．対象

Ａ県内の４総合病院の男性看護師が配属されている一般病棟に入院中の，自力で回答できる男女の患者，総計200名（男性：147名，女性：53名）を対象とした。

3．調査期間

平成24年７月～８月。

4．調査内容

1）属性：年齢，性別

2）前田ら[5]が抽出したケア36項目の「男性・女性看護師からケアを受けることへの抵抗感」の有無，「男性看護師からケアを受けた経験」の有無。

3）「男性看護師からケアを受けることへの信頼」

岡谷[6]の開発した４因子・28項目から構成された「患者信頼スケール」を，開発者の許可を得て使用した。『尊重』因子は、患者を人として尊重する看護師の態度に関するもので，「看護師は私の好みや意見を取り入れながら世話をしてくれる」「看護師は引き受けたことは必ずする」など10項目からなる。『信用』因子は看護師の力量や能力を信用することを表すもので，「看護師は言うこととやることが一致している」「看護師が指導することは信用できる」など８項目からなる。『安心』因子は、看護師との関わりによって生じる患者の気持ちを表すもので，「看護師に話を聞いてもらうとほっとする」「看護師と話すと気持ちが楽になる時がある」など６項目からなる。『関心』因子は，看護師が患者に関心を寄せる態度に関するもので、「看護師は私に関心を寄せ，いつも見ていてくれる感じがする」「看護師にいて欲しいと思う時にはいてくれる」など４項目からなる。

各項目について「全くそう思わない」１点～「非常にそう思う」４点の４件法で評価し、比較には、因子別の平均得点を用いた。

5．分析方法

1）男性患者・女性患者各々の，男性看護師・女性看護師によるケアに対する信頼（患者信頼スケール下位因子平均値）の差の検定（t 検定）。

2）下記の各項目の，男性･女性患者の認識を比較した。

（1）男性看護師からケア 36項目を受けた経験の有無、および，ケアを受けることに対する抵抗感の有無の差の検定（χ^2検定）。

（2）男性看護師からの羞恥心を伴うケア経験の有無による，患者信頼スケール下位因子平均値の差の検定（t 検定）。

（3）男性看護師からケアを受けた経験頻度の高い群の，患者信頼スケール下位因子平均値の差の検定（t 検定）。

6．倫理的配慮

1）各施設の病院長から文書による許可を得た。

2）調査票は，患者の治療や体調に配慮し，病棟看護師長の監督下で，接触の許可の得られた患者のみに手渡しで配布した。

3）回収箱は看護職員の目を気にしなくてもよい場所に設置した。

4）調査は無記名で，調査の分析に必要な年齢と性別以外の質問項目は設定していない。

5）各調査票に，研究の主旨，方法，結果を学会等で公表すること，調査への協力は任意であり，協力しなくても診療上の不利益は受けないこと等の倫理的配慮に関する説明書を添付し，回答を以て同意とした。

Ⅳ．結　　果

１．概要

回収数は151，回収率は75.5%で，記載に不備のあったものを除外した105を分析対象とした。男性67名（有効回収率：45.6%），女性38名（有効回収率：66.7%）で，平均年齢は男性62.4±14.31歳，女性64.2±15.51歳であった。男性看護師からケアを受けた経験の比率は，男性患者と女性患者との間に有意差はなかった。

２．男性看護師・女性看護師のケアに対する信頼の程度（表１）

男性患者では，男性看護師に対する『信用』因子得点2.6±0.68点に対し，女性看護師には2.8±0.63点，男性看護師に対する『安心感』の因子得点2.1±0.78点に対し，女性看護師には3.4±1.78点で，女性看護師に対する信頼得点が有意に高かった（p<0.01）。他の２因子の得点には有意差はなかったが，女性看護師への信頼得点の方が高かった。女性患者では，男性看護師と女性看護師各々に対する信頼得点は，『尊重』因子が2.6±0.71点と2.8±0.64点（p<0.01），『信用』因子が2.4±0.78点と2.6±0.61点（p<0.05），『安心感』因子が2.0±0.68点と2.4±0.64（p<0.01），『関心』因子が2.0±0.72と2.3±0.60（p<0.01）で，４因子全てにおいて，男性看護師より女性看護師への信頼得点が有意に高かった。

３．男性看護師から羞恥心を伴うケアを受けることに対する抵抗感（表２）

ケア36項目中，入浴介助・尿器介助・導尿・浣腸などの羞恥心を伴い易い排泄ケアや清潔ケア19項目に対する抵抗感を比較したところ，男性患者より女性患者の方が，男性看護師による実施に抵抗感を持つ人が有意に多かった（p<0.01）。

４．男性看護師から羞恥心を伴うケアを受けた経験の有無による信頼の程度（表３）

男性患者，女性患者，各々について，男性看護師から排せつや清潔ケアなどの羞恥心を伴うケアを受けた経験有群と無群との患者信頼スケール下位因子平均得点を比較した。男性患者，女性患者共に，羞恥心を伴うケアを受けた経験の有無によって，因子得点の差は見られなかった。しかし，女性患者では，有意差はないものの，４因子全てにおいて経験有群の信頼得点の方が高かった。

５．男性看護師からケアを受けた頻度によるケアに対する信頼の程度（表４）

男性看護師からケアを受けた経験頻度の高い男性患者21名と女性患者7名について，男性看護師のケアに対する信頼の程度を下位因子平均得点で比較した。両者の得点に有意差は見られなかった。男性患者，女性患者共に，『尊重』の得点が最も高く，『関心』の得点が最も低かった。

Ⅴ．考　　察

１．「男性看護師」に対する固定観念

患者は性別を問わず，総じて男性看護師より女性看

表１　男性・女性看護師の看護ケアに対する信頼得点の比較

患者信頼スケール下位因子	看護ケア実施者	男性患者			女性患者		
		人数	平均値±SD	p 値	人数	平均値±SD	p 値
尊重	男性看護師	51	2.7±0.67	n.s.	30	2.6±0.71	**
	女性看護師	51	2.8±0.66		30	2.8±0.64	
信用	男性看護師	50	2.6±0.68	**	30	2.4±0.78	*
	女性看護師	50	2.8±0.63		30	2.6±0.61	
安心感	男性看護師	50	2.1±0.78	**	30	2.0±0.68	**
	女性看護師	50	3.4±1.78		30	2.4±0.64	
関心	男性看護師	47	2.1±0.94	n.s.	30	2.0±0.72	**
	女性看護師	47	2.3±0.79		30	2.3±0.60	
全体	男性看護師	52	2.5±0.62	*	30	2.3±0.66	**
	女性看護師	52	2.6±0.62		30	2.6±0.59	

t検定　n.s.：not significant　p<0.05＊　p<0.01**

表２　男性看護師から羞恥を伴うケアを受けることに対する抵抗感

ケアの種類	抵抗感	男性患者(名)	女性患者(名)	p 値
清拭	有り	1	19	**
	なし	46	13	
入浴介助	有り	9	24	**
	なし	41	7	
尿器介助	有り	9	23	**
	なし	38	7	
おむつ交換	有り	8	25	**
	なし	41	6	
導尿	有り	11	25	**
	なし	40	6	
浣腸	有り	10	24	**
	なし	39	6	
摘便	有り	7	22	**
	なし	41	9	

χ^2検定　n.s.: not significant　p<0.05 *　p<0.01**

表３　男性看護師から羞恥を伴うケアを受けた経験による男性看護師に対する信頼得点

患者信頼スケール下位因子	羞恥心を伴うケアを受けた経験	男性患者			女性患者		
		人数	平均値±SD	p 値	人数	平均値±SD	p 値
尊重	有り	36	2.7±0.69	n.s.	16	2.6±0.73	n.s.
	なし	21	2.8±0.66		14	2.5±0.70	
信用	有り	35	2.6±0.71	n.s.	16	2.4±0.92	n.s.
	なし	21	2.5±0.64		14	2.4±0.61	
安心感	有り	35	2.1±0.82	n.s.	16	2.1±0.81	n.s.
	なし	22	2.2±0.66		15	1.8±0.53	
関心	有り	34	2.2±1.07	n.s.	16	2.1±0.82	n.s.
	なし	20	2.0±0.66		15	1.9±0.63	
全体	有り	36	2.4±0.64	n.s.	16	2.4±0.76	n.s.
	なし	22	2.5±0.59		15	2.2±0.63	

t検定　n.s. :not significant　p<0.05 *　p<0.01**

表４　男性看護師のケアを受けた頻度の高い患者の男性看護師に対する信頼得点

	男性患者		女性患者		
患者信頼スケール下位因子	人数	平均値±SD	人数	平均値±SD	p 値
尊重	21	2.7±0.64	7	2.5±0.85	n.s.
信用	21	2.5±0.52	7	2.5±1.00	n.s.
安心感	21	2.1±0.78	7	2.2±1.04	n.s.
関心	19	1.9±0.69	7	2.0±0.89	n.s.

t検定　n.s. :not significant　p<0.05 *　p<0.01**

護師のケアに信頼を置いていることが示された。このことから，人々の意識の中に，「看護師＝女性」という固定観念が根強く定着していることがわかる。初めて男性看護師と接触する患者は，物珍しさと驚きの中で男性看護師と対峙するであろうことから，男性看護師のケアに対する評価も自ずと厳しいものになると考えられる。

２．女性患者が男性看護師からケアを受けることへの抵抗感

女性患者の６～８割は、男性看護師から排泄ケアや清潔ケアのような羞恥を伴うケアを受けることに抵抗を感じており、その割合は男性患者に比べて有意に高いことが確認された。これは、女性患者の５割強が、陰部を露出するケアを女性看護師に代わってほしいと思っているとする、橋本ら[3]の先行研究や、女性患者の6割程度が男性看護師から清拭や入浴介助を受けることに抵抗を感じているとする、前田ら[5]の先行研究の結果と一致するものであった。この抵抗感は，異性に身体を露出することに対する当然の反応であるが、加えて、「男性看護師」という未知の医療職の世話を受けること自体の困惑も含まれているものと推測する。女性患者にはこの点を踏まえた意識的な配慮が重要になると考える。

３．良いケア経験による男性看護師に対する信頼構築の可能性

有意な差はなかったが、男性看護師から羞恥心を伴うケアを受けた経験のある女性患者の方が，経験のない女性患者より，男性看護師のケアに対する信頼が高く，その信頼は，ケアの頻度によらなかった。これは、男性看護師のケアを受けた経験のある患者は、経験のない患者に比べて、男性看護師に良い印象やイメージを抱いているとする、小嶋[4]らの先行研究と類似の結果であった。このことから，男性看護師が行うケアに対する信頼は，性差によるより，男性看護師からその都度適切なケアを受けたかどうかの影響の方が大きいと推測される。したがって，信頼の構築には，男性看護師による適切なケアの積み重ねが必要不可欠であり，それが，男女の別なく「看護師」として社会に受容されることに繋がるのではないかと考える。

４．研究の限界

Aという１地方に限定された調査であり，結果には、自ずと地域文化の影響が反映されている。また，調査は入院患者一人一人に説明を行って協力を要請した結果，研究協力に応じていただいた方を対象としたため，男女比に偏りがある。そのため，対象の女性患者は，そもそも，男性看護師に対して違和感を持っていない集団である可能性も否めない。以上より，本結果を一般化するには限界があるが，男性看護師のケアに対する患者の認識の一端を浮き彫りにできたという意義はあると考える。

Ⅵ．結　　論

A県内４病院の男性看護師が勤務する病棟に入院中の男性患者67名・女性患者38名の質問紙調査から，次の結果を得た。

１．男・女患者共に，男性看護師より女性看護師のケアへの信頼が有意に高かった。

２．男性看護師によるケアへの抵抗感は女性患者の方が高かった。

３．男性看護師から実際に“羞恥心を伴うケア”を受けた経験のある女性患者の男性看護師に対する信頼は，未経験者より高かった。

４．男・女患者共に，男性看護師のケアを受けた経験頻度による男性看護師のケアに対する信頼に差はなかった。

本報告は，島根大学医学部看護学科第11回卒業研究集録，並びに，第23回日本医学看護学教育学会での報告を加筆修正したものである。

謝辞：入院中にもかかわらず調査に御協力くださった患者の皆様，労を厭わず御支援くださった看護管理者の皆様に深謝いたします。

文　　献

１）日本看護協会公式ホームページ，看護統計資料室：http://www.nurse.or.jp/toukei/index.html

２）奥平直哉・坂東良枝・田村智子他（2010）：羞恥心を伴う看護ケアに関する調査，第40回日本看護学会論文集（看護管理），p.99-101

３）橋本恒弘・山中美子・文才理（2004）：男性看護師のケアに対する女性患者の感じ方に関する調査，第34回日本看護学会論文集（看護総合），p.233-235

４）小嶋亜紀子・筑後幸恵（2005）：男性看護師に対す

る入院患者の需要，第35回日本看護学会論文集（看護管理），p.366-368
5）前田えりな・岩井美知代・前みゆき他（2011）：看護師の性別と入院患者の看護ケアに対する抵抗感の関連，第41回日本看護学会論文集（看護総合），p318-321
6）岡谷恵子（1995）：看護婦－患者関係における信頼を測定する質問紙の開発，看護研究，28（4），p.29-39

（受付　2013年８月23日）